

NPO法人自然と緑

NPO 法人自然と緑 会報 2024 年 5 月 1 日発行 第 136 号

特定非営利活動法人自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35

大阪市教育会館 (アネックス パル法円坂) 4 階

TEL : 06-6809-1700 FAX : 06-6809-2702

E-mail : info-sm@shizen-midori.org

URL : <https://shizen-midori.org>



自然大学の 29 期が始まりました

NPO 法人自然と緑理事長 伊藤孝美

第 29 期自然大学は定員の 30 名の受講生で開講しました。

これまで開講講座と森林の生態の講義を頂いてきた神崎護先生が京都大学を退任されて岩手に行かれました。これまでのご指導に対して感謝の意を表します。

新しく渡辺学長の推薦により、京都大学前教授で京都大学学術情報メディアセンターの松下幸司先生に、開講講座「地球環境と人間」として“戦後の造林政策”について講義を頂きました。また、大阪公立大学教授の伊東明先生に、森林の生態—その多様性・進化・機能・保全—と題して講義を頂きました。

カリキュラムは 4 月と 11 月を除いて月 1 回のペースで実施しますが、水域生態系を講義して頂く教授の仕事のご都合などで若干の変更をしています。しかし、これまでと同じように講義と実習を連携させて、講義の後の実習で現地での実際の生態系を楽しみながら、五感で体感するというように学習していきます。受講生には野外実習での安全を第一義とし、楽しく自然環境が学習できるよう、スタッフ・リーダーとともに運営していきます。

新型コロナウイルスが落ち着きを見せ、マスクは着脱自由で平常どおり講義・実習を進めていきます。



第 29 期自然大学開校式 (2024. 4. 7)

◆ホームページが新しくなっています！

新しいホームページ (略: HP) は下記のアドレスでご覧下さい。

<https://shizen-midori.org> 検索の場合は「NPO法人 自然と緑」で検索して下さい。

なお、HP 内では Facebook も併設で、楽しい写真や情報満載です。そちらも是非覗いてみて下さい。

◆メールアドレスが新しくなりました！

新メールアドレスのアカウントは下記になっています。

info-sm@shizen-midori.org の登録をよろしくお願いします。

— 136 号目次 —

p 1	自然大学の 29 期が始まりました	自然と緑理事長	伊藤孝美
p 2 ~ 3	渡辺弘之の未解決事件簿 (18) アンコールワットの奇怪樹とウデムシ	自然大学学長	渡辺弘之
p 3	これなんだろう・何故だろう / 寄付等御礼	自然と緑理事長	伊藤孝美
p 4	地元の巨樹・古木(13) 慈眼院の姥桜	自然と緑理事	竹内一郎
p 4	会報川柳	自然と緑事務局	神崎 江
p 5	さいとうさんの“話のタネ” (64) カメリア「エリナ・カスケード」	自然と緑前理事長	齊藤 侑三
p 6	第28期自然大学 長崎海岸実習—海の生態と環境 感想文 (抜粋)		28 期自然大学受講生
p 7	斑鳩町里山整備事業について	自然と緑元事務局長	大東 弘
p 7	竹の研究ノートから (4) モウソウチクの地下茎の伸び方	自然と緑理事長	伊藤孝美
p 8	これなんだろう・何故だろうの答/活動報告/編集雑記	自然と緑	会報編集部

渡辺弘之の未解決事件簿 (18) アンコールワットの奇怪樹とウデムシ

自然大学学長 渡辺弘之

アンコールワット

1964年2月のこと、一人でカンボジア、プノンペンへ行った。何と、60年も前のことだ。アンコールワット遺跡へ行きたかったのだが、シェムリアップ空港はまだなく、陸路で行くしかなかった。当時は内戦状態で治安が悪く、とても行ける状態ではなかった。プノンペンで数日を過ごした。2011年2月に、やっとアンコールワットへ行くことができた。大人数での自然観察旅行で日程もきつかったが、ここで確認したいことが2つあった。一つは肥前の武士森本右近太夫一房が江戸時代の寛永9年(1632)に、ここを訪ねて母の菩提を弔うために壁に書いたという筆跡を確認したかったこと、もう一つがタ・プロム(Ta Prohm)遺跡の回廊に上から覆いかぶさって遺跡を壊している樹木の確認であった。



アンコールワット



森本右近太夫は当時開港されていた長崎・平戸から出国し、アンコールワットをインドの祇園精舎と信じて訪れ、この回廊に墨書で母を弔うためここを訪れたことを書き残した。私たちの旅行のガイドは日本人相手である。右近太夫の墨書がここだと示してしてくれたが、墨書の上に赤いペンキが塗られているようで、字自体は鮮明ではなかった。右近太夫は無事に帰国したのだが、当時は鎖国令下、その旅のことを誰にも話さず、何も書き残さなかったという。晩年は京都・山崎で過ごしたとされるが、旅の記録を残せなかったのは歴史的にもきわめて惜しい。

アンコールワット近くのタ・プロムの遺跡の上から大きなタコの足のような気根を下す樹木の存在は有名で、この樹木の写真はどのガイドブックにも掲載されている。平山郁夫・石澤

森本右近太夫の筆跡 良昭・松本栄一『アンコールワットの旅』(講談社 1992)の中でも「クワ科の絞め殺し樹木、榕樹、ガジュマルあるいはバンヤンジュ(あるいはバニヤン)だ」と紹介されている。私自身、先にここへ行った妻と娘が撮ってきてくれた写真を見て、こんな気根を持つバンヤンジュもあるのかと、拙著『東南アジア樹木誌』(昭和堂 2005)の中でこれをバンヤンジュとしてしまったのだが、バンヤンジュではないのではという疑問をずっともっていた。



スプン Spung (*Tetrameles nudiflora*)

正常なスプンの樹形→

訪れた日のこと、遺跡群アンコールトム南大門を入ったところにすくっと立つ巨木があった。カンボジアでスプン「Spung」と呼ばれる *Tetrameles nudiflora* (テトラメレス科)であった。この樹木は中国・雲南省南部のシーサンパンナを訪れた時にも見ていたが、通直な巨木で薄い大きな板根をもっていた。それがタ・プロムではタコの足のような巨大な気根のようなものが回廊の上から地表まで数メートルも下りてきている。とても同一種とは思えないものであった。一目見て、ガジュマルなどバンヤンジュと呼ばれている絞め殺し樹木のクワ科フィカス(*Ficus*)



属のものではないと思った。

まちがいがなく、カンボジアでスプン「Spung」と呼ばれる *Tetrameles nudiflora* であった。インド、スリランカ、中国南部からインドシナ半島、マレーシア、ニューギニア、オーストラリア東北部などの乾季を持つ地域に広く分布し、樹高は45mにもなり雌雄異株とされる樹木である。

←タ・プロムのガジュマル(バンヤンジュ) タ・プロムのスプン→

あの薄くて大きな板根がこんなタコの足になるのだろうかという疑問がわくと同時に、こんな有名な樹木なのに、ガジュマル(バンヤンジュ)ではないと今まで誰も指摘しなかったのだから、私のまちがいかとちょっと弱気になってきた。しかし、たくさんの日本人がここを訪れこの写真を撮り、この木の前で



記念写真を撮っている。やはり、これはガジュマルではなく、カンボジアでスプン(Spung)と呼ばれる *Tertrameles nudiflora* であると知っていただく。ガイドブックも訂正・説明をして欲しいものだ。もちろん、たくさんの気根を垂らした本当のガジュマル(バンヤンジュ)もタ・プロムにも他の遺蹟にもあった。カンボジアなどではこのスプンを街路樹にしているところもある。すくっと立つその樹形を見れば、タ・プロムのあのタコがやはり異様なのである。

ウデムシ(腕虫)

タ・プロムで跨いだ遺跡の上に、大きな脚を揃えたウデムシがいた。私自身初めて見るものだった。一瞬、つかもうと手が伸びたが入れ物がない。ポリ袋では潰れてしまうだろうと、掴むのを躊躇し、写真を撮っただけで、次へと移動した。

ウデムシ→

この奇怪な虫、ウデムシ(腕虫)を知っている人は少ないだろう。ヨーロッパではある程度知られているようだ。映画ハリーポッター・シリーズの「炎のコブレット」の中でムーディ先生がこれを飼っていて生徒の頭の上にこれをのせたりしている。一見、クモにも似ているが腕(脚)が異常に長いものだ。日本のアニメ「千と千尋の神隠し」の中で、地下で一日中、薬草を粉にしている窯爺の手が異常に長い。私はこのモデルもウデムシだと思った。



分類上、さまざまな形をしているクモ、ダニ、大きな爪と毒針をもったサソリ、サソリによく似ているが尾が鞭のように長いサソリモドキ(ムチサソリ)、小さなカニそっくりのカニムシ、糸のように長い脚を広げるザトウムシ、それにここで述べるウデムシなどをクモ綱(クモガタ綱・クモ形綱・蛛形綱)という。

ウデムシには歩脚を広げると 17 cm にもなる大きなものがあるらしいが、とくに長い第 2 脚をもち、通常、これを折り曲げている。夜行性で昼間は物陰に隠れ、夜、出てきて昆虫などを捕食するようだ。大きなものではトカゲ、コウモリ、ハチドリなどを食べていたことが確認されている。毒性はないという。

東南アジアを含め、アフリカ、南アメリカなど熱帯域に広く分布し世界に 150 ~ 200 種もいるとされる。台湾には 1 種いるようだが、日本には分布しない。東南アジアにはこれまで何度も行っているが、この虫との遭遇は初めてだった。

帰国後、このウデムシの写真をザトウムシやカニムシなどのクモ綱の研究者に見せたら、「実物が欲しかった」といわれた。喜んでくれるお土産だったのに、ちょっとした躊躇で貴重なチャンスを失った。ネットで見るとタンザニアオオウデムシがペットとして人気だという。日本でも、このウデムシを飼っている人がどうもいるらしい。

アンコールワットを訪れたら、タ・プロムの遺跡の奇怪樹スプンを見るのと同時に、ウデムシがいることを知っていただく。



【これなんだろう・何故だろう】

この写真は Google Earth のタ・プロムの衛星画像のところにあった 1980 年頃より前に撮影されたと思われる 1 枚の写真で、クワ科のバンヤンジュ(ベンガルボダイジュ) *Ficus benghalensis* の細い根が何かの太い根に巻き付いているのが見られます。何かの太い根といえば、前記の渡辺先生の文章にある、タ・プロムの遺跡を締め付けているスプン(Spung)と呼ばれるテトラメレス *Tertrameles nudiflora* で、間違いなくテトラメレスと思われます。

この写真のバンヤンジュは、絞め殺し植物 Strangle fig で、何故絞め殺し植物なんて言われるのでしょうか。(答は最終ページをご覧ください)



【御礼】いつもありがとうございます。(順不同、敬称略)

<切手、ハガキ、現金などのご寄付、他>

3 / 4	寄付	大井幸子	3 / 18	寄付	福本 繁
3 / 22	寄付	宮崎初枝	3 / 27	切手	福田淳子
4 / 4	寄付	匿名希望	4 / 7	ホツキス他	佐々木泰彦



4 / 11 寄付 伊藤

地元の巨樹・古木（13）

自然と緑理事 竹内一郎

泉佐野市 慈眼院（じげんいん）の姥桜（うばざくら）（大阪府泉佐野市日根野 626）

幹周 約 3 m、樹高 約 13 m、樹齢 約 400 年。大阪府指定天然記念物（昭和 45 年 2 月 20 日指定）

うばひがん *Prunus Itosakura* Sieb. var. *ascendens* Makino [ばら科]

山林にはえる高さ 15 m ほどになる落葉木で、時に鑑賞用に植えられる。小枝は細長く、表面はなめらか。葉は長い柄があり、互生。早春に葉より早く淡紅色の花を開き、散形状に数個の花が集まる。がくは筒状で 5 裂。花弁は 5。雄しべ多数、雌しべ 1。夏に小豆粒ほどの紫黒色の被果がなる。江戸彼岸、東彼岸ともいう。（学生版 牧野植物図鑑）

慈眼院の姥桜→

うばひがんは本州、四国、九州に分布するが、関東に多く生息したので江戸彼岸（又は東彼岸）と呼ぶようになった所が多い。

慈眼院は白鳳 2 年（673 年）開創と伝えられ、弘仁 8 年（817 年）に弘法大師が来住し諸堂を建立したそうです。天正年間には織田信長・豊臣秀吉の根来寺攻めで兵火にみまわれましたが、多宝塔（国宝）・金堂（重要文化財）など多数の文化財が残っています。隣の日根神社の境内から慈眼院の庭の一部が見えますが、歴史が感じられるたいへん立派な庭です。弘法大師伝説の一つに、大師が地面に立てた杖が成長して桜になったというのがあります。それが慈眼院の姥桜だそうです。

慈眼院の近くに大井関公園があり、大井関橋から望む溪谷の景観と谷の清流、満開のソメイヨシノの並木は「大阪みどりの百選」に選ばれています。慈眼院の姥桜は 1 本のみですが「大阪府天然記念物」に指定されています。ところで「姥桜」の意味について、「姥」の文字（女へんに老いる）を見て、今はネガティブな解釈をすることが多いようですが、本来は女盛りを過ぎてもお色気や美しさのあるご婦人ことで、桜の美しさに例えた褒め言葉です。

慈眼院の姥桜は、隣接する日根神社参道との間の植え込みにあります。神社鳥居の近くです。

樹齢 400 年の根元の古い幹は、幹周が 3 m あります



※（神崎江（こう）は、自然と緑事務局・同自然大学担当
神崎トモ子さんの雅号です。）

春を告ぐミモザと過ぎす金曜日
3月8日、今年の「世界女性デー」は金曜日でした。
別名「ミモザの日」。女性に限らず、誰もが人としての
権利も守られ、平和な社会が実現できますように。

ペダルこぎイチョウ並木で風になる
桜が咲き、新緑の季節になると気持ちも軽やかになり
ます。
散歩、ハイキング、サイクリング、それぞれの楽しみ方で
風になろう。

会報川柳

神崎江

が内部は空洞化しているようです。地上 3 m 付近から新しい樹幹が 3 本出て、他種の桜より高く成長しています。この新しい樹幹は 100 ~ 150 年を経ていると言われ、元気に美しく成長しています。まさに姥桜です。



根元の幹と3本の樹幹

最後に、花言葉は「心の平安」。薄いピンクに心のやすらぎを感じます。



エドヒガンの花



シダレザクラの花

さいとうさんの話の種(64) カメリア「エリナ・カスケード」

前自然と緑理事長 齊藤 悦三

2021年2月2日京都市の梅宮大社に行った。池には中島があり小さな橋が架けてあった。その橋のもとに今まで見たことの無い植物がツボミをつけていた。形からモッコクの仲間かな？と思って調べた。また、常緑、開花時期などいろいろな条件を入れて調べたが、全く分からない。



エリナ・カスケード 梅宮大社



エリナ・カスケード 梅宮大社

2月14日ステップアップ講座で大阪公立大学附属植物園の自然観察をしていると、サザンカの葉に似ていると気づいた。葉が小さいので「ヒメサザンカ」で探すと「カメリア・エリナ」にたどりついた。そして、カメリアの改良種で枝が細く、枝垂れ気味になる「カメリア・エリナ・カスケード」があった。判明まで2週間以上苦労したのは初めてだった。「カメリア エリナ」は、まっすぐに伸びるタイプ。「カメリア エリナ・カスケード」は、枝が枝垂れるように見えるのが特徴だ。



カメリア・エリナ 長岡天神

後日、長岡天神に行くと、樹高が2mある「カメリア・エリナ」がツボミをつけていた。2ヶ月後にJR河内磐船駅近く美容店の庭に「カメリア・エリナ・カスケード」の薄桃色の花が咲いていた。梅宮大社に開花を確かめに行こうかと思っていたところだった思いがなかった。



エリナ・カスケード 河内磐船

「カメリア・エリナ・カスケード」はツバキ科ツバキ属の常緑低木だ。低いところで枝別れて株立ち状、枝は細いので枝垂れ気味になっている。1カ所から鈴なり状態にツボミが出て3月～4月頃、花弁の外側が淡桃色の直径1cmほどの小花を咲かせる。耐寒性があり日陰にも強く、細い枝と細長い葉に風情のある常緑低木。別名は「ヒメサザンカ」。なお本来のヒメサザンカは琉球列島の固有種で花は似ていない。カメリア・エリナは中国四川省南部付近の野生椿を埼玉県芝道昭氏が育成した園芸品種と言われ、エリナは芝道氏のお孫さんの名前とか。9月から花芽がたくさんつきはじめ、開花は3～4月頃で、淡桃色の花を鈴なりにつける。新芽は赤みを帯び華やかな雰囲気だ。



カメリア・エリナ 長岡天神



ヒメサザンカの名で販売

販売していた。

花は杯形、一重咲きの極小輪、桃白色の地色に鮮紫ピンク色のぼかしが入る。花弁は丸形、花弁数は9個以下。ツボミの形は円尖形、雄ずいの形は茶せんしべ、花糸は白色。葯は黄褐色。花弁と雄ずいは癒着する。子房は無毛。花柄は長い。花の芳香は無い。葉も花も小さくて可愛い花だ。

撮影した写真を探していたら、2019年3月大阪城公園の植木市で「ヒメサザンカ」の名前で



エリナ・カスケード 河内磐船

鍋島靖信教授（前大阪府環境農林水産研究所主任研究員）

○♪海は広いな～大きいな～・・・海が誕生して40億年か～。とてつもなく長～い時間をかけて生き物たちは進化してきたのですね～。短時間であんなたくさんの生き物たちを採集できてびっくりです。大阪府の沿岸1.9%の、そのまた一部分の長崎海岸で短時間にあれだけの生き物が見られたのですから、せめて沿岸の半分でも自然海岸だったら、もっと多様で豊かな生き物が生息出来たろうと思いを馳せました。アメフラシがかわいかったです。でも、あっという間に背中を裂いて、「これが貝殻の名残りです。」とペラペラを取り出した鍋島先生の素早さにびっくり。おなか一杯のアオサも何をどれだけ食べているのか、一目瞭然。現場で本物を見て観察するって、すごいインパクトでした。あれだけたくさん採集できたのは、たくさんの目で探した結果。一人では到底出来ません。採集したものの同定も長年磯に関わってこられた先生のおかげ。集団で学ぶことの大切さを感じました。



海の説明をする鍋島教授

海岸の岩盤（和泉層群）を見る→
 ○久しぶりに海の磯に立って、潮の香りに包まれながら海岸沿いの生物観察をして、とても楽しい時を過ごすことができました。また、岬町の長崎の磯は、大阪近郊では希少な「自然環境」が残されている事と、やはり人間の営為によって生物が著しく影響を受け、生物の多様性が損なわれていることを実感できました。鍋島先生他、自然大学の諸先生方及び事務局の皆様には深く感謝申し上げます。**海藻類**：沢山の緑藻類や褐藻類、紅藻類を観る事ができました。普段、食べているワカメやアオサやアオノリなどが実際に生えている状態を直接見る事ができて興味深かったです。「メカブ」とはワカメの根元部分という事が分かりました。**動物類**：最も興味深かったのは、アメフラシとウミウシでした。貝殻の退化した貝類というのは、カタツムリやナメクジからも推測ができました。アメフラシが赤紫色の体液を出したのも印象的でした。それから興味があり、ウニ類やナマコ類や貝類に行きました。先生の話の中では、魚類や貝類の性転換や環境ホルモンの影響などの話が印象的でした。**海と森の関係について**：若いころに森林生態学の泰斗の四手井綱英先生の「森と海は繋がっている」という生態系に関する学問を知って「目からウロコ」の思いでした。また、私の両親の実家は、四国の丸亀の漁師の一族で、コロナが落ち着いて、最近会った漁師の従弟たちからの話では、瀬戸内の工場や一般からの排水浄化が進んで窒素やリンが減少し、海が貧栄養価して、海底の掘削、護岸工事などと合わせて、魚種（既に 24 種絶滅）や漁獲量が激減して、自分たちの代で、もう漁業は終わりだという悲しい話を聞きました。環境問題の改善は、一筋縄ではいけなく、かつ、まった無しの状況が進んできている事を痛感しています。今回の観察会では、それらの事も再確認できました。



○環境の違う場所（海岸部）に生える植物は普段身近に接している植物とは違うので、とても興味深くたびたび足を止めてしまいました。海岸の生物も想像していたよりも多くの種類、多くの量に出会えてとても楽しく過ごせました。鍋島先生のお話もとてもおもしろくて時間がたつのを忘れてしまいました。今後、時間があればさらに細かな同定までチャレンジしてみたいです。海と魚が好きなので申し分のない一日でした。



←鍋島教授の海浜生物同定会



鍋島教授の同定を待つ海浜生物

○岬町長崎海岸であのような小さい海岸岩場にも色々な生物が多く生息しているとはびっくり！しかし、専門家の説明等を聴けば又違った面で、なんの問題、汚染も無さそうでも、船舶の塗料により漁獲量が減ったり、下水処理場の浄化が進み過ぎて海水に栄養が不足したりとか、自然を人間が管理することの難しさを感じられる次第です。我々一人ひとりが出来る事は小さな事ではあるかもしれないが、具体的にどんな事をすれば良いのか知ることが出来れば？

※感想文が非常に多く、鍋島先生のコメントも多かったのですが、鍋島先生のコメントはカットしました。（編者）

斑鳩町里山整備事業について

NPO法人自然と緑 元事務局長 大東 弘



放置里山を管内に有する地方自治体（都道府県）により、これらの事業費を捻出するため、森林税として1人当たり500円（年齢にかかわらず）新たな税を徴収し始めていたが、奈良県としても平成18年度（2006年）より新税を立ち上げた。

この税は県民税だが、執行するのは参加の市町村という形のため、森林課等森林行政に関わりの薄い市町村では、大きな戸惑いがあった。奈良県としても事業執行もスムーズに運ばず、模索をしていた。担当課長としては「市町村の温度差が大きく暗礁に乗り上げている。」と頭を抱えていた。いわゆる放置里山林が対象で、放置されていても人工林は財産価値との関係で対象外だったため、整備できる里山には限りがあった。そして、地主の了解を取る困難さ。

自然と緑としては豊田満理事（当時）の個人宅を奈良県連絡所にして申請を出した。平成23年（2011年）秋より女性中心の団体が樹木の伐採ができないということで、下請けの形で斑鳩町の里山整備を始めることになった。その後実績が認められ、直接契約できることになり、今日に至っている。

県の方針としてはアラカシ、シイノキ、ソヨゴなどの常緑樹は皆伐して欲しいとの指導だったが、そこまではと、明るい疎林にすると申し入れし認められ、ソヨゴは100mに1本程度としてほぼ皆伐、アラカシ、シイノキは独立樹木に剪定、混み合ったところは間引くこととし、ほとんど花が着かないコバノミツバツツジ、カクミノスノキ等に日照を確保することに重点を置いた。

まだまだ手入れは必要だが、ツツジの花も増え下草も元気になりだし、少しずつ里山は回復している。しかし、松枯れとカシナガの被害は甚大で大木のほとんどが枯死した。地表部の日照を増やしたため、実生苗が順調に育ち、20年後は里山が復活するものと期待している。これからも参加、ご協力ください。



今日の作業は終了



きれいになった里山

《竹の研究ノートから（4）》モウソウチクの地下茎の伸び方

NPO法人自然と緑理事長 伊藤孝美

2004年にモウソウチクの地下茎が、いつ頃伸び始めて、いつ頃まで伸びるのか、そして、どのくらい伸びるのかを調べてみました。調査した3本のうち、1本だけが順調に成長していました。

地下茎は下図のように、2004年3月11日から5月20日まで伸びる様子はありませんでしたが、6月18日には50cmの先まで伸びていました。その1ヶ月後の7月13日には193cmまで約1ヶ月で140cm余も伸びていました。さらに40日後の8月25日には332cmまで140cm伸びていました。9月末には計測はできませんでしたが1mほど伸びていました。従って1例ではありますが、地下茎は6月上旬から伸び始めて、7～9月に旺盛に伸びるようです。





【3頁の答え】

これを見ると今から 60 年以上前に遺跡を締め付けて生立していたテトラメレスの、20m 程の高さの所の枝の付け根（写真の上の方の縋れた所）にバンヤングジュの種が着いて、芽生えて根を下ろし、細い根がホストの幹にたくさん絡まり、巻き付いてきた。やがてバンヤングジュの根は癒着して太く、分厚くなり、枝葉は芽生えた所から上の方にどんどん大きく生育し、やがてホストであるテトラメレスの枝葉を包み込むように枝葉が生育すると、テトラメレスは太陽光をバンヤングジュに遮られ、光合成が出来なくなって枯れて腐って、腐った根は無くなってしまったのであろう。これが絞め殺し植物の姿なのである。（写真は 2016 年撮影）

自然と緑の活動報告 2024年1月～2024年4月

◇ 01/23 (土) ステップアップ講座打合せ会議	08 人
◇ 02/11 (日・祝) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森一燻製作り	11 人
◇ 02/13 (火) (社) 近畿建設協会 募集案内会議	03 人+2 人
◇ 02/23 (金・祝) 自然と緑の自然観察会「大和民族公園」	26 人
◇ 02/25 (土) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森定例活動（含炭焼き）	09 人
◇ 03/03 (日) 第 28 期自然大学「里山・まとめ・修了式」	49 人
◇ 03/06 (水) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森一引継ぎ会議	04 人
◇ 03/09 (土) 斑鳩町の里山整備	11 人
◇ 03/10 (日) ステップアップ講座「最終講義・修了式」	32 人
◇ 03/12・13 (火・水) 自然大学・ステップアップ合同卒業旅行	47 人
◇ 03/14 (木) 3 月期理事会	15 人
◇ 03/17 (日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森定例活動（含炭焼き）	16 人
◇ 03/18 (月) ドコモ三田の森撤収	02 人
◇ 03/19 (火) 大阪経済法科大学里山整備	05 人
◇ 03/20 (水) 29 期自然大学リーダー・事務局会議	11 人
◇ 03/21 (木) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森一 2024 年度間伐木選木	03 人+03 人
◇ 03/24 (日) 自然と緑の自然観察会「山辺の道」	21 人
◇ 03/29 (金) 武庫川探訪自然観察会「第 9 回」	20 人
◇ 03/30 (土) 2024 年度ステップアップ講座事前打ち合わせ	05 人
◇ 03/31 (日) ドコモまほろばの森撤収	06 人
◇ 04/06 (土) 2024 年度ステップアップ講座「開講式・開講講義」	29 人
◇ 04/07 (日) 第 29 期自然大学「開講式・開講講義」	54 人
◇ 04/07 (日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森への物置搬入	06 人
◇ 04/11 (木) 2024 年第一回理事会	14 人
◇ 04/13 (土) 地学的むかし散歩「第 8 回」	21 人
◇ 04/14 (日) 第 29 期自然大学「森林の生態講義」	54 人
◇ 04/15 (月) 斑鳩町の里山整備	11 人
◇ 04/16 (火) 大阪経済法科大学里山整備	10 人

NPO法人 自然と緑 ダウンロード方法



上記QRコードに
アクセスして下さい

★編集雑記
☆卯の花の匂う垣根にホトトギス早も来鳴きて、しのび音もらす夏は来ぬ」（佐々木信綱作詞）
☆この歌は、五月上旬頃の初夏の季節をうたったものであるが、温暖化が進んだ今日この頃では既にウツギの花は満開となっていることであろう。
☆「卯の花」は旧暦の卯月（五月）に咲くことから卯の花と言われる。
☆和名のウツギは漢字で書くくと「空木」で、軸を切断すると、中が空洞になっていることから言われる言葉である。
☆軸が空洞になっている植物には、ウツギ属（*Deutzia*）で○ウツギと名の附く六種あり、中空の軸を使って笛を作ることが出来る。
☆軸を 5 ～ 10cm ぐらいに切り、片方は斜めに切り、斜めに切ったところに割れ目を入れ、そこにウツギの薄い外皮を差し込んで笛とする。
☆その他には、ユキノシタ科のアジサイの仲間が軸が中空である。また、バラ科にコメウツギ、スイカズラ科にツクバネウツギの仲間が四種あるが、中空であるかは調べていないので定かではない。（ワンワン）